

問1 明治政府が「学制」の公布や「徴兵令」の布告といった大規模な改革を短期間のうちに断行した背景にある、当時の政府の基本的な方針として最も適切なものはどれですか。（2020年 鳥取公立入試 類似）

1. 欧米列強に対抗できる経済力と軍事力を持つ「富国強兵」を目指すため。
2. 江戸時代の身分制度を維持し、士族の特権を守ることで社会の安定を図るため。
3. 地方の農村の自治を尊重し、重い税負担を軽減することで国民の支持を得るため。
4. 外国との交易を制限し、日本独自の伝統文化を保護することを最優先したため。

問2 明治初期、福沢諭吉などの思想家たちが、欧米の近代的な考え方を日本に紹介し、古い習慣を改めて合理的な社会を作ろうとした動きについて述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2024年 福島県公立入試 類似）

1. 学問を通じて個人の自立を促し、欧米の思想を広めようとする啓蒙思想が流行した。
2. 天皇中心の政治を確立するため、仏教を排除して神道を国教とする政策を推進した。
3. 大衆の政治参加を目指し、吉野作造が民本主義を提唱して普通選挙の実現を訴えた。
4. 武士の特権を守るため、欧米の文化を拒絶して日本の伝統的な生活様式を重視した。

問3 1873年から実施された地租改正では、当初、税率は地価の3%と定められていました。しかし、負担の重さに苦しむ農民による反対一揆が各地で激化したため、明治政府は1877年に税率を何%に引き下げましたか。（2019年 大阪公立入試 類似）

1. 1%
2. 2.5%
3. 3.5%
4. 5%

問4 1869年に明治政府が行った、各藩の藩主（大名）がそれまで所有していた土地と人民を天皇に返還させた政策を何といいますか。（2026年 愛媛公立入試 類似）

1. 版籍奉還
2. 廃藩置県
3. 徴兵令
4. 秩禄処分

問5 18世紀後半から19世紀にかけてのイギリスでは、技術革新によって社会が大きく変容しました。この時期、綿織物の大量生産を可能にし、のちに鉄道などの交通機関にも利用された動力源と、その主な燃料の組み合わせとして正しいものはどれか。（2022年 長野県公立入試 類似）

1. 蒸気機関と石炭
2. 内燃機関と石油
3. 水車と薪
4. 電気モーターと天然ガス

問6 岩倉使節団には、将来の日本を担う人材を育成するために多くの留学生が同行した。この時、当時わずか6歳で同行し、後に女子英学塾（現在の津田塾大学）を創立するなど日本の女子教育の発展に貢献した人物は誰か。（2017年 千葉県公立入試 類似）

1. 樋口一葉
2. 平塚らいてう
3. 与謝野晶子
4. 津田梅子

問7 地租改正の内容とその後の経過について説明した文として、正しいものを選びなさい。（2026年 福岡公立入試 類似）

1. 当初、税率は地価の3%とされたが、各地で反対一揆が起こったため、のちに2.5%に引き下げられた。
2. 地租改正によって農民の税負担は江戸時代よりも大幅に軽くなり、農村の生活はすぐに豊かになった。
3. 税を納める義務は、土地を耕作している小作人に課せられ、土地の所有者は免除された。
4. 地租改正によって現金での納税が始まると、米の価格が下落したため、政府はすぐに物納に戻した。

問8 明治政府が1871年に行った、それまでの藩を廃止して新たに府や県を設置し、中央政府から知事（県令）を派遣して地方の直接統治を開始した改革の名称を答えなさい。（2018年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 廃藩置県
2. 版籍奉還
3. 徴兵令
4. 地租改正

問9 明治時代初期の1872年の出来事を記した年表において、欧米の近代思想を紹介した『学問のすゝめ』という著作を出版したことが記されている人物は誰ですか。（2018年 山形県公立入試 類似）

1. 福沢諭吉
2. 板垣退助
3. 大隈重信
4. 新渡戸稲造

問10 日本の近代外交史において、1873年に朝鮮への使節派遣をめぐる征韓論の争いに敗れて政府を去り、その後故郷の鹿児島を中心として活動した人物は誰か。（2024年 青森県公立入試 類似）

1. 西郷隆盛
2. 大久保利通
3. 板垣退助
4. 木戸孝允

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 欧米列強に対抗できる経済力と軍事力を持つ「富国強兵」を目指したため。	明治維新後、政府は欧米列強による植民地化を防ぎ、対等な立場を築くために「富国強兵」を掲げました。この目標を達成するためには、国民全体の知識水準を向上させる教育（学制）や、身分を問わず組織された近代的な軍隊（徴兵令）が必要不可欠であると考えられ、急速な社会制度の改革が進められました。
問2	<b>答え 1</b> 学問を通じて個人の自立を促し、欧米の思想を広めようとする啓蒙思想が流行した。	福沢諭吉は明六社などの活動を通じ、西洋の自由や平等の考え方を日本に広める啓蒙思想の中心的な役割を担いました。吉野作造の民本主義は大正時代の動きであり、時代背景が異なります。福沢は実学（生活に役立つ学問）を重視し、それによって国民一人ひとりが独立することを求めました。
問3	<b>答え 2</b> 2.5%	明治政府は当初、財政を安定させるために地価の3%を現金で納めさせる地租改正を行いました。農民の負担が旧来と変わらず重かったため、各地で大規模な反対一揆（地租改正反対一揆）が起こりました。これを受けて政府は、士族の反乱などが続く不安定な情勢の中で農民の不満を和らげるため、1877年に税率を2.5%へ軽減しました。
問4	<b>答え 1</b> 版籍奉還	明治政府が欧米列強に対抗できる近代国家をつくるためには、天皇を中心とした中央集権体制を確立する必要がありました。そこで、土地（版）と人民（籍）を天皇に返還させることで、政府による直接支配の足がかりとしました。なお、これによって旧藩主は知藩事に任命されましたが、実質的な支配権は依然として残っていたため、のちの廃藩置県へとつながることになります。
問5	<b>答え 1</b> 蒸気機関と石炭	産業革命期のイギリスでは、ワットらによって改良された蒸気機関が普及し、それまでの水力や人力を上回る圧倒的な動力を得ることが可能になりました。この蒸気機関を動かすための主要なエネルギー源として石炭が大量に採掘され、工業化の進展を支えました。この動きは綿工業から始まり、のちに製鉄業や鉄道、蒸気船といった交通の分野へも広がっていきました。
問6	<b>答え 4</b> 津田梅子	岩倉使節団には、岩倉具視や木戸孝允、大久保利通といった政府の重要人物だけでなく、5人の少女を含む留学生が同行していました。その一人である津田梅子は、アメリカで長く教育を受けた後に帰国し、女子の高等教育を推進するために私塾を設立し、日本の教育制度の充実に寄与しました。
問7	<b>答え 1</b> 当初、税率は地価の3%とされたが、各地で反対一揆が起こったため、のちに2.5%に引き下げられた。	地租改正による税負担は、これまでの年貢と変わらないほど重いものであったため、各地で「地租改正反対一揆」が発生しました。これを受けて明治政府は、1877年に税率を地価の3%から2.5%へと引き下げました。なお、納税の義務を負ったのは耕作者ではなく、地券を交付された「土地の所有者」です。
問8	<b>答え 1</b> 廃藩置県	明治政府は、近代的な中央集権国家を樹立するために、旧来の領主（大名）による地方支配を終わらせる必要がありました。1871年に実施されたこの改革により、全国が政府の直接的な統治下に入り、中央から派遣された官吏が地方行政を担う仕組みが整えられました。
問9	<b>答え 1</b> 福沢諭吉	福沢諭吉は、明治時代の代表的な啓蒙思想家です。慶應義塾を創設し、西洋の合理的な考え方や民主的な思想を日本に紹介しました。著書『学問のすゝめ』は当時の大ベストセラーとなり、文明開化の時期の日本人に大きな影響を与えました。
問10	<b>答え 1</b> 西郷隆盛	武力を用いてでも朝鮮を開国させようとする征韓論を主張したが、欧米視察から帰国して内治優先を説いた大久保利通や木戸孝允らに反対され、参議を辞職した。同じく下野した板垣退助らが自由民権運動へ向かったのに対し、この人物は鹿児島で私学校を設立し、後に西南戦争を起こした。